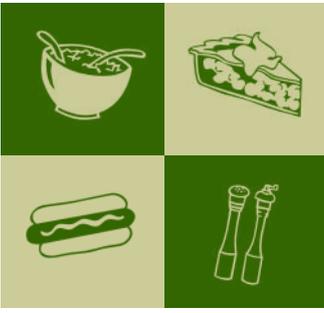


ナナミちゃんの農事通信

山梨県北杜市明野町で「雨と風と太陽と」
 「土と人情」に囲まれた。ナナミ
 ちゃんの「私、土の子」奮闘記

02.25
 猫の寝床
 の上で大
 アクビ、
 キキ太



1 椿が花盛り

藪椿の他に椿の名前は分かりませんが、落ちていた種を拾って土に埋めて？ 忘れた頃に苗が育ち!! 母屋と宿に20本以上が育っています。東京自宅から移植した苗もあり楽しみです。花の少ない早春に咲き始め、一年中緑を絶やさない木、明野は霜で葉が茶色に焼けてしまうなど、厳しい環境ですが頑張って咲いていますヨ。



↑03.08母屋玄関先の椿二種、どうした訳か？ 二種類の椿が一カ所に! ①墨赤のバラの様な色、②大輪のピンク、霜にも負けず今盛り



↑三宅島の藪椿、種を埋めて15年ほどで8本に。
 ←シンプルで飽きの来ない色と形で。母屋の裏で半日陰ですが。

→↑03.08お宿看板横の椿、葉も霜で茶色く焼け、霜枯れた花も有るが、温かくなり元気に復活!!

2 ナナミちゃんのお宿は

春が来れば木々は芽吹き花も咲く。宿の周りの木々も芽吹く前にと、選定作業を少しづつ始めていますが、重いモノを持ち歩くのが怖いので、力カに剪定枝を束ねて運んだり、腰をかがめる作業はお願いを・・・



△03.01伸び放題のレンギョウ
 ↑低く作り直スッキリさせた。



↑03.01徒長枝が繁茂したスモモ

↑力カに力仕事の片付けを頼んで

↑03.03手が届く高さに剪定。

目次

1 椿が花盛り	1
2 ナナミちゃんのお宿は	1
3 春の畑仕事	2
4 三月のお味	2

ハイライト

3月6~10日「蟄虫啓戸すごもりのむしとをひらく」啓蟄を少し詳しく言い換えたもので、意味は同じ、日常生活のなかで、小さな生き物を目にするのが当たり前だったからこそ生まれた語句と言えよう。なお古代中国では、桃の花が咲き始める頃という意味から、この時期は「桃始華」と呼ばれていた。桃には不思議な力が秘められ、邪気を祓い、不老長寿を与えてくれると信じられていたのだが、この考え方は日本でも受け入れられ、「日本書紀」では桃を神として。「古事記」では黄泉の国から雷神などに追われたイザナギの尊が、桃を投げつけ難を逃れた。黄泉の国の入り口とされる黄泉比良坂ヨツカサカ、カカトト旅で見た道標で知ったが、坂道の風景は思い出せても、場所の記憶は無く、出雲？ 熊野？ 九州のどこか??



02.22庭畑の堆肥枠、あたりを見渡すハナ

3 春の畑仕事

02.27↓トンネル畝の5枚重ねの防寒用シート類を、カカト向き合い巻き取る →春一番の仕事。

気温も0℃を下回ることも少なくなり、畑と庭畑のトンネル畝に重ねてあったビニールシート類を、カカトで巻き取り霜除けネット1枚に衣替え。シート類を重ねたままだとトンネル内の温度が上がり過ぎ、野菜は臺が立ったり腐ったりし始めた。この後は大豆の豆ガラを焼き耕し、遅れているジャガイモの畝作りを急がないと・・・



↑霜除けネットを残して巻き取った

↑02.27玉ネギ苗が出来なかったが、何とか冬越しが出来た。

↑グリーンピースは元気。霜が降りなくなれば、霜除けネットを外してトンネルを解体、豆ツルの柵を立てる。



↑02.27大豆の豆ガラや茎は焼いて耕し、ジャガイモ植えの準備が



↑畑の冬越し春キャベツは巻き始めたが、まだ小さい。



4 三月のお味

02.28↑庭畑でも霜除けネット1枚にノ



ノ玄関内で育つ原木椎茸を↑時々収穫をして、



↑庭畑の外したシート類をカカトで巻き取りノ



↑車庫の壁に吊るして整理。



↑02.28ビニールシートを巻き取り、小松菜とノラボウに水遣りをした畝。



①



②



③



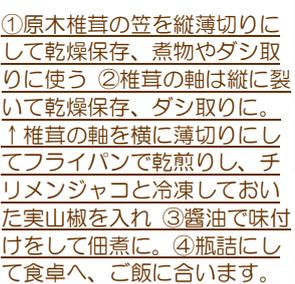
↑左上からゴボウ・人参・水煮した曙大豆・シラタキ・芽ヒジキと姫竹輪をメン汁などで、ノ汁気が無くなるまで煮付けて煮物常備菜。



畑仕事が少ない冬は、カカは佃煮などの常備菜作りで忙しい。今も電気代節約なのか？玄関土間の七輪で、摘み採った落の臺で「落味噌」作り、わが家の黒豆味噌で煮込んでいます。味噌のイイ匂いが漂っています、本格的な春がやって来る。



②



①原木椎茸の笠を縦薄切りにして乾燥保存、煮物やダシ取りに使う ②椎茸の軸は縦に裂いて乾燥保存、ダシ取りに。↑椎茸の軸を横に薄切りにしてフライパンで乾煎りし、チリメンジャコと冷凍しておいた実山椒を入れ ③醤油で味付けをして佃煮に。④瓶詰にして食卓へ、ご飯に合います。



④